

「茂庭のメガソーラー」建設計画について



<今成山から>

2023年11月18日

「おいで」里山の会

佐藤 龍朗

茂庭のメガソーラー建設計画

2022年5月20日 「太白区茂庭字高田地区太陽光発電所」設置計画 地権者説明会内容
「・・・土地の有効活用方策について提案・・・」

<業者>

- * 3年前から、他の地域で計画を進めてきた、大規模開発ができない地域とわかり断念した。
- * 行政も前向き、国も後押ししている事業。
- * 地権者の理解が得られず、まとまった土地が確保できなくとも実施する。
- * 今後のスケジュールについて、来春、行政に開発計画を提出予定。

<参加者>

- * 急斜面の設置となり、土砂災害の心配がある。
- * 大量の森林を伐採しての太陽光発電事業には賛同できない。
- * 規模が大きすぎて不安、他の方法での再エネ事業は考えられないか。

事業者：スマートファーム（株）

住 所：神奈川県横浜市中区元浜町3-21-2 ヘリオス関内12階

電 話：045-550-5544

資本金：5000万円（令和4年3月）

茂庭台団地

メガソーラー計画地

茂庭地区

横浜の開発会社が約100haの山林伐採
10万枚の太陽光パネル設置する計画

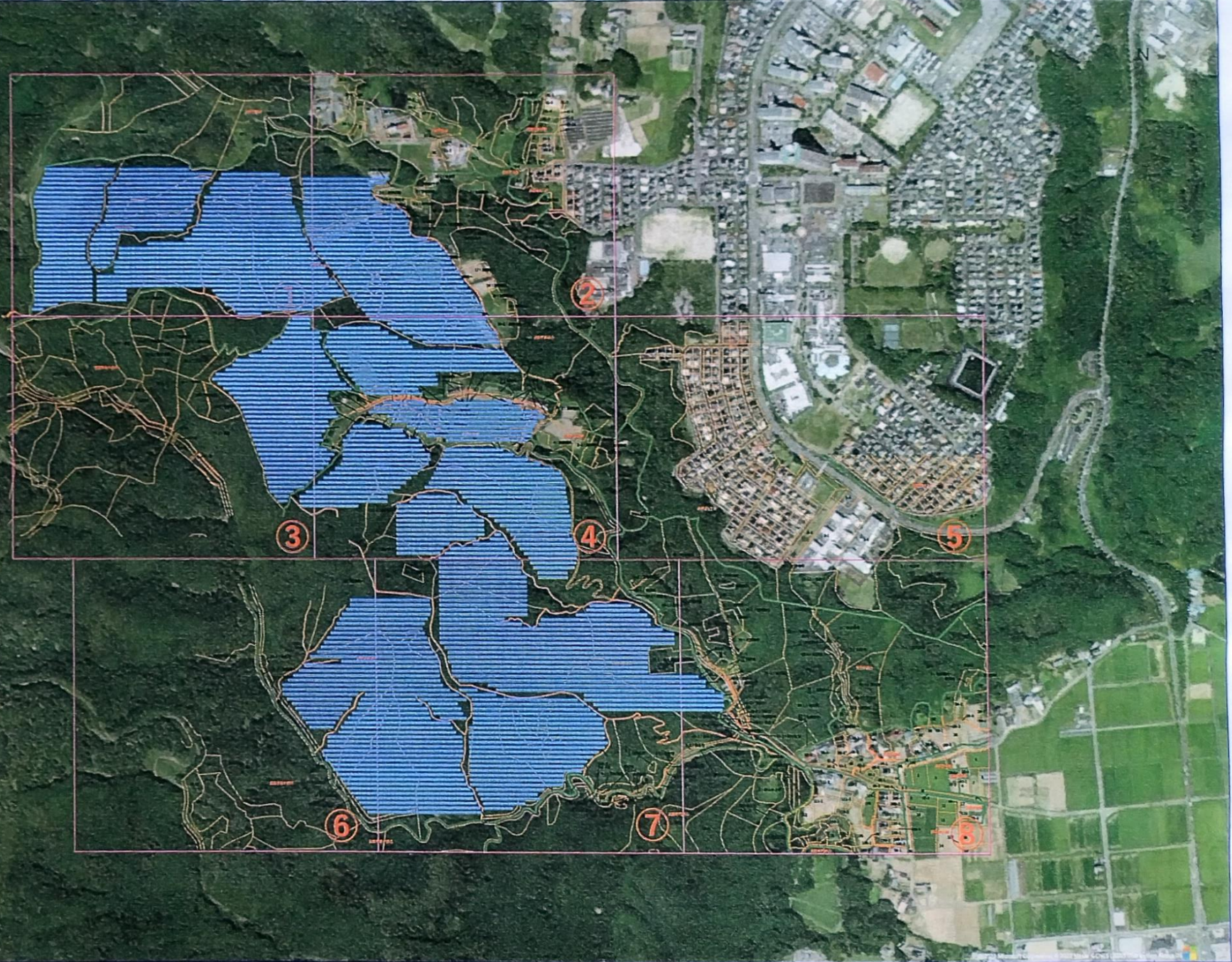
仙台南IC

◆システム仕様

モジュール容量	495W×120,000枚=59.4kW
モジュール枚数	120,000枚
アレイ構成	40230,000列

◆モジュール仕様

メーカー	トリナソーラー
型式	TSM-49SDEG18MC.20(II)
最大出力	495W
寸法	2,187mm×1,102mm×35mm



5月20日 地権者説明会で出された図面

青い部分にパネル設置を予定



SmartFarm

仙台市太白区50MW太陽光発電計画
説明会資料
令和4年5月20日
本郷町内集会所13:30

スマートファーム株式会社

<計画概要>

設置住所	高田山、高田東、高田西、愛宕山、亀ヶ森北、嶺山、門野山地区他
発電容量	49,995kW (495W × 101,000枚)
想定発電量	86,669,708kWh (年間)
想定世帯数	24,074世帯 (一般家庭3,600kWh/年)
面積	約30万坪 (100町歩)
CO2排出量	39,607トン削減

<茂庭のメガソーラー建設計画の経緯>

2014年3月 「蕃山地区大規模太陽光発電計画」 FIT認定を受ける (前段階)

2022年

- 5月20日 「**仙台市太白区50MW発電計画**」説明会 13:30~14:30 本郷地区集会所
参加者 地権者8名、業者3名、他、2名
- 6月 7日 菅生太陽光発電事業 (異例の飛び地発電) 環境影響評価企画段階配慮書縦覧開始
- 7月24日 (仮称) 「**茂庭のメガソーラーを考える会**」準備会結成 8名参加
- 8月20日 「林業の現状とこれから」ー茂庭の森林を活かす道はー
学習会開催 講師 宮城中央森林組合 8/29 河北朝刊に記事掲載 38名参加
- 9月 4日 岩の川探索 茂庭本郷~高田 砂防ダムの土砂堆積状況の確認目的 3名
- 9月11日 開発予定地、周辺地域の歴史遺産について現地視察 7名
- 10月16日 「**おいで**」**里山の会結成**
ー講演と会結成のつどいー 参加者 60名
講演: 「丸森耕野地区のメガソーラー建設問題について」
講師 耕野の自然と未来を考える会 義高 光さん
- 11月12日 第一回学習会 「中世の山城と茂庭の歴史」講師 渡邊忠彦先生 参加者33名
- 11月27日 岩の川探索 砂防ダムの状況、砂鉄採取跡、古戦場跡など視察 9名参加
- 12月16日 熊沢視察 仙台市河川課職員2名、会員2名
⇒流木などの撤去を約束⇒2023年6月 撤去工事完了

2023年

- 1月13日 仙台弁護士会公害対策環境問題委員会で「茂庭のメガソーラー建設計画」
について概要説明を行う
- 4月11日 「菅生飛び地発電」国認定失い「仙台側」断念**

< 茂庭メガソーラー建設計画 > 前段階

・ 蕃山の大規模発電計画（茂庭ソーラーウェイ）

太白区茂庭字鍋田25-1 他41筆（山林）70万㎡ 最大出力40,000Kw発電

2014年3月28日 FIT認定（設備ID：A653798B04）固定買い取り価格 **32円/kwh**

JAG国際エナジー（株）東京⇒青葉産業（株）仙台⇒富洋管理システム（株）東京

2015年2月

2017年8月

⇒ **タイガー（株）** 横浜

2017年12月

2021年3月

蕃山21の会に対して、事業主体の茂庭ソーラーウェイ合同会社の全権委任を受けた**スマートファーム（株）**から事業の協力要請あり、自然を保護するため反対し、白紙撤回を求める。

事業予定地は「**蕃山・斉勝沼緑地環境保全地域**」に指定されている。

仙台市「杜の都の風土を守る土地利用調整条例」により開発はできない状況にある。

茂庭ソーラーウェイ

FIT認定 タイガー (株)

茂庭ソーラーウェイ合同会社

代理 スマートファーム (株)

2021年3月
事業予定地 「蕃山・斉勝沼緑地環境保全地域」
仙台市「杜の都の風土を守る土地利用調整条例」
で開発できない。

茂庭字高田地区太陽光発電所 (茂庭のメガソーラー)

スマートファーム (株)

・ 開発予定地土地所有者説明会 2022年5月20日

「3年前から、他の地域で計画を進めてきたが、
大規模開発ができない地域とわかり断念した。」

菅生太陽光発電事業 (飛び地発電)

菅生太陽光発電合同会社 (東京) ⇒

G S S G ソーラージャパン (東京)

・ 環境影響評価計画段階配慮書縦覧

2022年6月7日～7月6日

・ 住民説明会開催

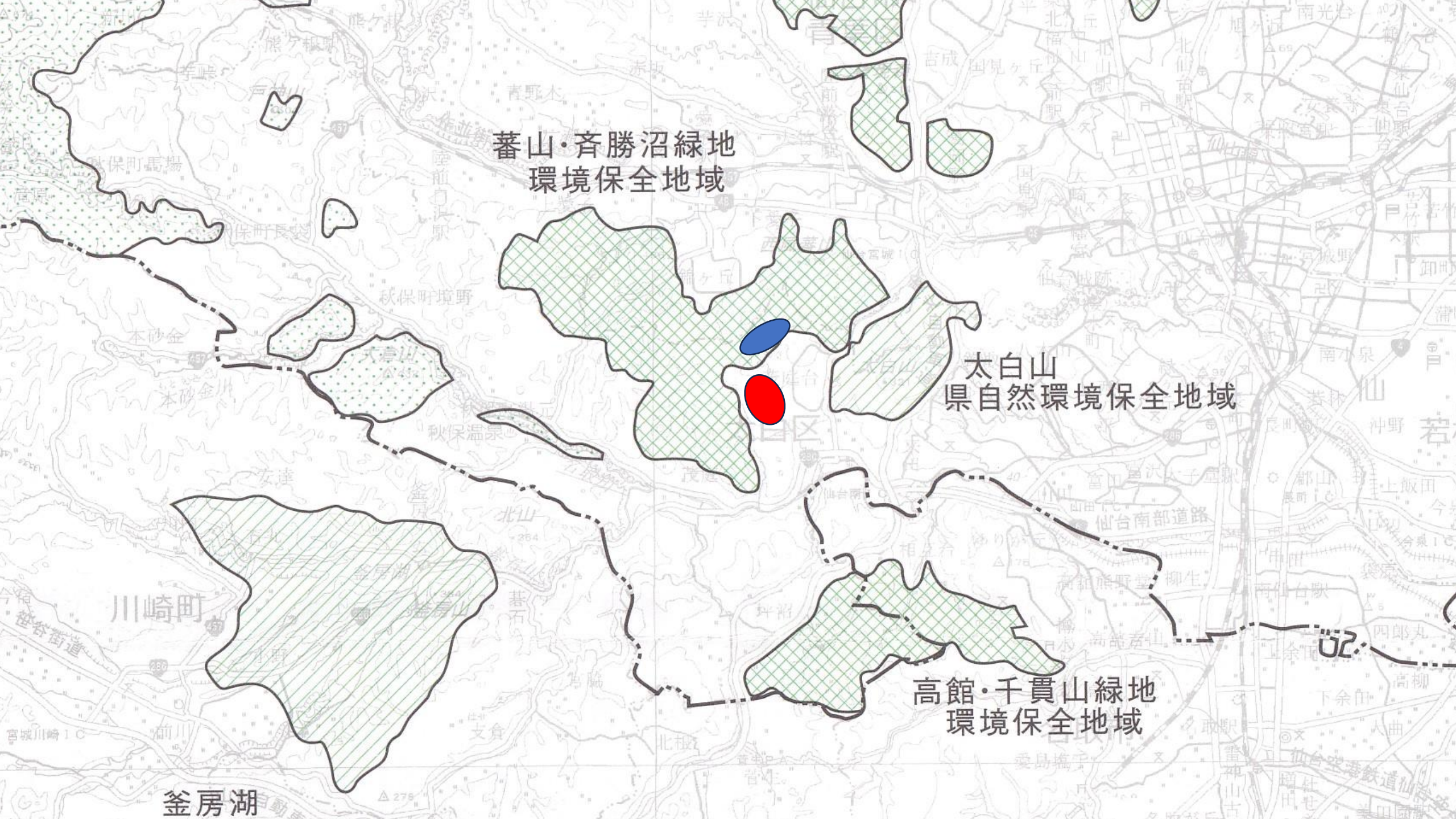
茂庭ソーラー設置図



菅生飛び地発電パネル設置予定地

茂庭メガソーラー予定地





蕃山・齊勝沼緑地
環境保全地域

太白山
県自然環境保全地域

高館・千貫山緑地
環境保全地域

釜房湖

川崎町

△ 276

北山
264

U2

茂庭字高田地区太陽光発電所
(茂庭のメガソーラー)

鍋田地区

茂庭ソーラーウェイ

茂庭台団地から

菅生太陽光発電事業 (飛び地発電)

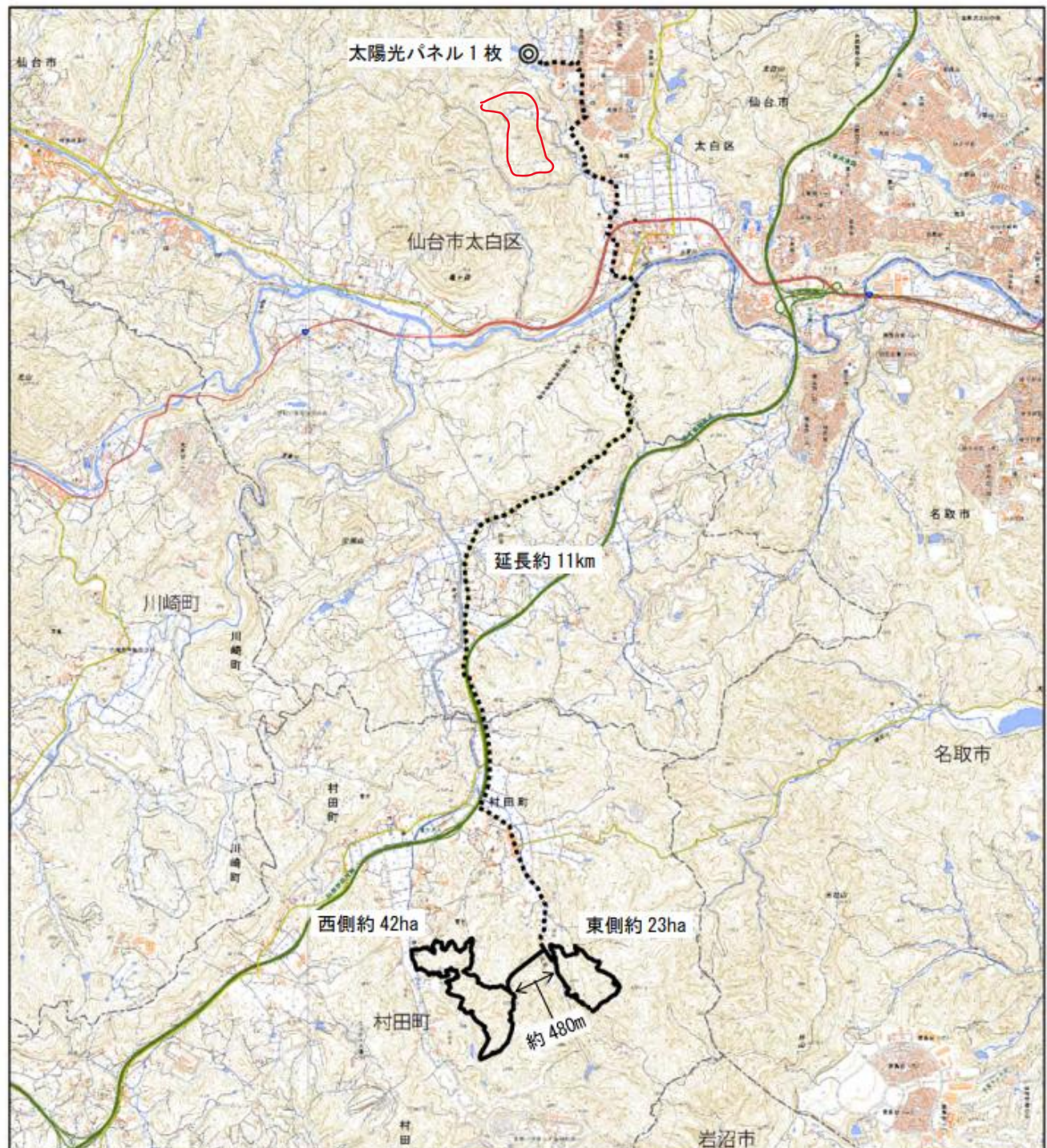
太白区茂庭鍋田地区

山林 15m²
太陽光パネル 1枚
出力 0.66kw

自営線

村田町菅生地区

山林 65ha
太陽光パネル 8万3160枚
出力 5万4886kw



太陽光パネル1枚

仙台市太白区

延長約11km

川崎町





太白区茂庭鍋田 1枚のパネル設置予定地

1) 事業実施想定区域の位置

本事業は、「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」(以下、FIT 法という)に基づき再生可能エネルギー発電事業計画の設備認定を取得した、宮城県仙台市内太白区茂庭地内の山林等を含む区域において、太陽電池発電所を整備する計画であった。

しかし、当該区域の大部分の範囲は「杜の都の風土を守る土地利用調整条例 土地利用方針(平成 30 年 4 月 1 日)仙台市」において、原則として開発事業の実施は行わないものとされている自然環境保全区域に該当し、事業実施が困難な状況となっている。FIT 法では、認定を取得した場所とは異なる場所で事業を実施する場合は、認定を取得した場所と発電設備を設置する場所とを電線路により電氣的に接続していることが必要とされている。

上記の状況を踏まえ、本事業では再生可能エネルギー発電事業計画で認定された発電出力を確保するため、設備認定を取得した区域から南側約 11km の宮城県柴田郡村田町において太陽電池発電所を整備するとともに、設備認定を取得した区域を自営線で接続し、一体となった太陽電池発電所を整備する計画である。

なお、宮城県柴田郡村田町に整備する太陽電池発電所は、2 箇所に分かれているが連結線で接続する計画である。

事業実施想定区域(村田町内) : 宮城県柴田郡村田町大字菅生 (図 2.2-1)

事業実施想定区域(仙台市内) : 宮城県仙台市太白区茂庭字鍋田 (図 2.2-1)

事業実施想定区域(自営線敷設想定ルート)

: 仙台市道(約 3.1km)、県道(約 5.4km)、村田町道(約 2.5km)に敷設(図 2.2-1)

太陽光パネル 宮城・村田 8万枚超 仙台・茂庭 1枚のみ



8万枚以上の太陽光パネルが並ぶ宮城と、約11万枚のわずかに一枚のパネルを電線敷いて結ぶ太陽光発電の対照的な実態を、宮城県が調査した。太陽光発電の導入が急激に進んでいるが、仙台や宮城を除き、定時の高い売電価格を維持するため、茂庭地区に定時の高い売電価格を設定し、宮城・村田地区は8万枚以上が置かれる。村田町菅生地区には大規模な山林伐採が想定され、住民が影響を不安とする。(大河原真司 申橋基道 報道部 小関 文也)

異例の飛び地発電 電線11キロで結ぶ計画

高い売電価格の維持狙う

宮城県の菅生PAに、太陽光発電所が建設される。約11キロ離れた仙台市太白区に、約100枚のパネルが設置される。太陽光発電の導入が急激に進んでいるが、仙台や宮城を除き、定時の高い売電価格を維持するため、茂庭地区に定時の高い売電価格を設定し、宮城・村田地区は8万枚以上が置かれる。村田町菅生地区には大規模な山林伐採が想定され、住民が影響を不安とする。(大河原真司 申橋基道 報道部 小関 文也)



豪雨被害 山林伐採に地元不安

村田町菅生の住民が、大規模な山林伐採による豪雨被害を懸念している。菅生地区は、大規模な山林伐採が行われる予定で、豪雨による土砂崩れや水害の危険が懸念されている。住民らは、伐採された土地をどう処理するか、そして豪雨時の被害を防ぐための対策を求められている。

太陽光発電計画 宮城県が意見書 「飛び地の茂庭除外を」

仙台市太白区茂庭地区に太陽光パネルを1枚、約11キロ離れた宮城県村田町菅生地区に8万枚以上を設置し、電線を結ぶ大規模太陽光発電計画(メガソーラー)の計画が発表された。宮城県は、本事業の発電量はほとんど「奪わない」とし、電線敷設工事による環境負荷が増加することを懸念し、飛び地の除外を要請した。菅生地区には約11キロ離れた仙台市太白区に、約100枚のパネルが設置される。太陽光発電の導入が急激に進んでいるが、仙台や宮城を除き、定時の高い売電価格を維持するため、茂庭地区に定時の高い売電価格を設定し、宮城・村田地区は8万枚以上が置かれる。村田町菅生地区には大規模な山林伐採が想定され、住民が影響を不安とする。(大河原真司 申橋基道 報道部 小関 文也)

飛び地のメカソーラー計画を巡っては、仙台市の環境影響評価審査会の議論で、委員が「自然的にも飛び地の除外を」として、菅生地区にパネルを設置することを求め、意見書を提出している。菅生地区には約11キロ離れた仙台市太白区に、約100枚のパネルが設置される。太陽光発電の導入が急激に進んでいるが、仙台や宮城を除き、定時の高い売電価格を維持するため、茂庭地区に定時の高い売電価格を設定し、宮城・村田地区は8万枚以上が置かれる。村田町菅生地区には大規模な山林伐採が想定され、住民が影響を不安とする。(大河原真司 申橋基道 報道部 小関 文也)

経産相見直し要求 宮城・飛び地発電 事業者に意見書

仙台市太白区茂庭地区に太陽光パネルを1枚、約11キロ離れた宮城県村田町菅生地区に8万枚以上を設置し、電線を結ぶ大規模太陽光発電計画(メガソーラー)の計画が発表された。経産相の見直しを要求する意見書を事業者に出していることが分かった。菅生地区には約11キロ離れた仙台市太白区に、約100枚のパネルが設置される。太陽光発電の導入が急激に進んでいるが、仙台や宮城を除き、定時の高い売電価格を維持するため、茂庭地区に定時の高い売電価格を設定し、宮城・村田地区は8万枚以上が置かれる。村田町菅生地区には大規模な山林伐採が想定され、住民が影響を不安とする。(大河原真司 申橋基道 報道部 小関 文也)

意見書は20日付。温室効果ガスについて、茂庭地区のパネル1枚による削減効果と約11キロの電線敷設計画は、環境負荷を軽減する効果があるとしている。菅生地区には約11キロ離れた仙台市太白区に、約100枚のパネルが設置される。太陽光発電の導入が急激に進んでいるが、仙台や宮城を除き、定時の高い売電価格を維持するため、茂庭地区に定時の高い売電価格を設定し、宮城・村田地区は8万枚以上が置かれる。村田町菅生地区には大規模な山林伐採が想定され、住民が影響を不安とする。(大河原真司 申橋基道 報道部 小関 文也)

太陽光「飛び地」発電 村田で説明会 仙台のパネル増設150枚 電線ルート 林道に変更



菅生太陽光発電事業(仮称)を計画するCOSGソーラージャパン(東京)は9日、菅生地区公民館で初の住民説明会を開いた。約40人が出席。同社は環境配慮書に対する国の意見を踏まえ、計画を変更すると説明した。茂庭のパネルを約150枚に増やすとともに、仙台-村田間の電線も県道や町道などのルート(約11キロ)ではなく、環境負荷が小さい林道などの別ルート(約16キロ)に敷設する方針を明らかにした。

住民からは賛同する声の一方、「飛び地」発電の自然さを指摘する意見も出た。「山林の伐採で豪雨が被るや土砂崩れ、水の枯渇が心配だ」「地元は無責任な事業の転売はほしくない」との声も上がった。再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度(FIT)は、認定時の計画通りに事業が行われない場合、認定の取り消しとなる可能性がある。現状は飛び地の



計画の住民説明会
同社の大堀総プロジェクタマネジャーは「売電価格が下がったり、認定が取り消されたりした場合、仙台側を切り離しても村田側で事業を続ける」と話し

「宮城・飛び地太陽光発電」東京の業者

国認定失い「仙台側」断念

村田の計画は維持



メガソーラー事業が継続される村田町菅生の山林

宮城県村田町菅生地区に8万枚以上の太陽光パネルを設置し、約1.5離れた仙台市太白区茂庭地区の約150枚と電線でつなぐ「菅生太陽光発電事業(仮称)」が、国の再生可能エネルギー固定価格買い取り制度(FIT)の認定を失っていたことが10日、分かった。

事業者のGSSGソーラージャパン(東京)は茂庭地区での計画を断念し、菅生地区のみでFITを活用せずに事業化を目指す考えを示した。

経済産業省のサイトによると、同事業は4月1日以降のFIT認定が「無効」となった。同省新エネルギー



課の担当者は取材に対し、設備が未稼働のままの計画を対象とした制度による「失効」か、法令違反などによる「取り消し」に該当する可能性がある」と説明。詳細は「個別の企業の話なので説明できない」と述べるにとどめた。

「課の担当者は取材に対し、設備が未稼働のままの計画を対象とした制度による「失効」か、法令違反などによる「取り消し」に該当する可能性がある」と説明。詳細は「個別の企業の話なので説明できない」と述べるにとどめた。

区と電線で結ぶ異例の「飛び地」計画に変更した。認定時の高い売電価格(1路当たり32円)の維持を狙ったものの、修正を迫られた形となった。

GSSGソーラージャパンの担当者は取材に対し、FIT認定を失ったことを認めた。今後は菅生地区側で事業を進める考えを示し、「高い売電価格の恩恵は受けられなくなり残念だが(無効により)自由度が増し、すっきり堂々と計画を進められる」と話した。

茂庭地区の住民有志でつくる「おいで」里山の会」の佐藤龍朗会長(71)「太白区は「無理のある計画だ」と思っていた。茂庭での説明会はなく曖昧な状況だったので、(撤退に対して)煮え切らない気持ちにはあ

計画に対しては県や仙台市のほか、環境省や経済産業省も見直しを求める意見書を事業者側に提出していた。

再生可能エネルギー電子申請

失効等認定情報照会

該当の設備IDを用いて失効情報の照会が行えます。

設備ID	<input type="text" value="A653798B04"/>	[半角英数字10桁]
------	---	------------

戻る

照会

※ご利用上の注意

本ウェブサイトでは、資源エネルギー庁が現時点で確認できている情報を元に認定状態を表示しております。最新の状況が反映されておらず、正確な認定状態が表示されていない場合がありますのでご注意ください。資源エネルギー庁では、失効期限や認定状態に関わる認定計画の状況を継続的に確認しており、既に失効済であることなどが事後的に判明した場合、認定状態の表示を変更する可能性があります。
(例えば、表示は「認定中」のものであっても、既に認定が失効している場合もございます。その場合は失効済であることが判明した段階で「認定が無効」の表示に切り替えます。)

照会結果

設備ID「A653798B04」の認定は、2023年4月1日以降、認定が無効です。 ※「認定が無効」というのは、失効、廃止又は取消しによって、当該認定が既に無効となっているものになります。



86,669,708 KWh × 32円 = 2773,430,656円/年

約28億 × 20年 = 約560億

100ha メガソーラー造成費用試算 250億

京都府におけるメガソーラー開発（南山城村の事例） 2019年

茂庭にメガソーラー建設計画について

スマートファーム（株）

2022年

5月20日 「仙台市太白区50MW発電計画」 地権者説明会

3年前から、他の地域で計画を進めてきた、大規模開発ができない地域とわかり断念した。

来春（2023年）、開発計画を提出予定

8月29日 年内にも林地開発許可や環境影響評価の手続きに入り、整備後は転売を予定している（河北新報 記事）

10月17日 2024年に着工の予定（河北新報 記事）

11月23日 「・・・ほかに進めなければならない案件が多々あるので、今のところ茂庭の優先順位は高くない」 東北放送 業者への取材

仙台市（都市整備局開発調整課）

「茂庭のメガソーラー発電所」建設計画は新聞などで知ってはいる。

開発業者からの接触は一度もない

仙台・茂庭 民有林にメガソーラー

8/29

横浜の企業、パネル10万枚計画

仙台市太白区茂庭地区の山林に大規模太陽光発電所（メガソーラー）を建設する計画が浮上している。事業を計画するのは、再生可能エネルギー事業などを手がけるスマートファーム（横浜市）。同社が作成した資料によると、茂庭地区の民有林約100畝に太陽光パネル10万1000枚を設置し、発電容量は4万9995kwを見込む。着工は早くとも2年後の2024年を予定する。地権者は20人以上とみられる。同社は5月20日、地権者向けに説明会を開催し「数年前から進めてきた計画。行政も前向きで、国も後押ししている」と言及。出席した地権者からは開発規模の大きさ、廃業後のパネル処分などに懸念の声が出たという。



同社は河北新報社の取材に応じ、パネル枚数などの計画の概要を「あくまでも周辺住民に説明するために出した」と述べた。同社は「平地や比較的なだらかな場所だけを選んで設置し、周囲からなるべくパネルが目につかないようにしたい」との考えを示した。年内にも林地開発許可や環境影響評価（アセスメント）の手続きに入り、整備後は転売を予定しているという。茂庭地区では太陽光パネルを1枚、約11畝離れた村田町菅生地区に8万枚以上を設置し、電線で結ぶ別のメガソーラー計画も進む。

地元住民が「考える会」

仙台市太白区茂庭地区に新たなメガソーラー計画が浮上し、住民有志が20日、計画内容や森林活用に関する勉強会を同区の本郷公民館で開いた。10月をめどに「考える会」を設立し、地元の自然や歴史などを学び直しつつ、計画の意義を吟味する方針という。約30人が参加した勉強会は、宮城中央森林組合（泉区）の幹部が講演した。県土の6割を占める森林を木材の生産から「酸化炭素の吸収、土砂流出や洪水防止など多面的な機能を持ち、地域全体の財産になる」と説明。植林、手入れ、伐採をバランス良く行う必要があるとし、林業に関わる補助金制度も紹介した。

「事業のリスクも検討」

同区秋保町のゴルフ場へのメガソーラー計画に反対する地元住民団体の安藤哲夫代表も登壇。太陽光発電を巡って、全国でトラブルが相次いでいる現状を報告し「投機目的で参入する事業者は責任の所在が曖昧になりやすく、リスクもある」などと指摘した。終了後、同区民生委員の津田正敏さん（71）は「高齢の地権者にとって森林の管理は大変で、土地の維持に不安があることも事実」と推し量る。一方で「目先の経済的メリットに飛びつくのではなく、自然の価値や事業のリスクとの兼ね合いも考えなければならぬ」と話した。



茂庭地区のメガソーラー計画を巡り、地元住民が情報共有を図った勉強会。20日、仙台市太白区

仙台・茂庭 太陽光建設計画 住民有志が反対の会



メガソーラー計画の概要を聞く参加者

仙台市太白区茂庭地区に大規模太陽光発電所（メガソーラー）を建設する計画を巡り、地元住民有志が16日、計画を監視し、地域の自然と歴史を学ぶ「『お

で里山の会」を結成した。今後、県や仙台市に計画の中止を訴えていく。茂庭市民センター（太白区）で結成総会があり、地元住民や県内の環境保護団体関係者ら約60人が集まった。大量の森林を伐採したメガソーラーは温暖化対策にならない、水害や土砂災害が心配されるなど、6項目の反対理由を掲げたアピール文書が読み上げられた。地権者の一人で会長に就いた同区の佐藤龍朗さん（70）は「森林を大規模に伐採して行う再生可能エネルギーには反対する」と強調した。質疑応答では「太

陽光パネルが寿命を迎えた後、大量の産業廃棄物になるのではないかなど不安視する意見が出された。茂庭地区では、再生可能エネルギー事業を手がける石巻・須江バイオマス発電所（石巻市須江の山林に建設予定の液体バイオマス発電所を巡り、事業者の再生可能エネルギー発電「G Bio」（ジーバイオ）インシアティブ」（東京）の住

「着工は来年3月」

事業者が住民に説明

民説明会が16日、市内の遊楽館であった。来年3月に発電所建設を始める新たな計画を示し、住環境悪化を懸念する住民からは事業撤回を求める声が上がっ

<茂庭のメガソーラー発電計画に反対する理由>

- ① 森林は二酸化炭素を吸収し、酸素を生み出す大切な資源です。
大量の森林を伐採して建設される、メガソーラー発電などの再生可能エネルギー事業は脱炭素社会を実現し、**地球の温暖化を抑制する対策にはならない**と考えます
- ② 開発予定地からの沢水、湧水は**茂庭地域の田んぼや畑の水源**となっています。
又、地域に生息しているゲンジボタルにとっても大切な水源です。
開発により水量の低下、枯渇、水質の低下が懸念されます。
- ③ 大規模な造成工事を行うことで、豪雨時、岩の川下流域での**水害や土砂災害**が心配されます。
- ④ 開発予定地、周辺地には中世の山城など史跡が点在し、山並みは中世のおもかけを残しております。
造成工事に伴い、**歴史遺産、歴史的景観**が失われる心配があります。
- ⑤ 予定地とその周辺地域にはニホンカモシカやツキノワグマ、サンショウウオなど多くの生き物が暮らしています。開発により、**生物の多様性が損なわれる**ことが心配されます。
- ⑥ 熊沢林道周辺や高田地域は近隣の住民や市民にとって、**自然に親しむ身近な散策路**になっています。
大量の太陽光パネルの設置により、森林や景観が失われ、自然を享受できなくなります。

実感できるものではありません。このため、今回「見える化」した数値を身近な事象と比較して説明すると効果的です。

森林づくりによる二酸化炭素吸収量であれば、例えば、「普通の家庭が1年間で排出する二酸化炭素排出量 (6,500kg/年) ○軒分を吸収する」、「乗用車が走行する際に排出する二酸化炭素量 (0.231kg/km) ○km 分を吸収する」といった説明が考えられます (数値は図 12 参照)。また、木材利用による二酸化炭素固定量であれば、例えば、「1ヘクタールのスギ林が1年間に吸収する二酸化炭素量 (8.8t/ha¹⁰) ○年分に相当する」などといった説明が考えられます。

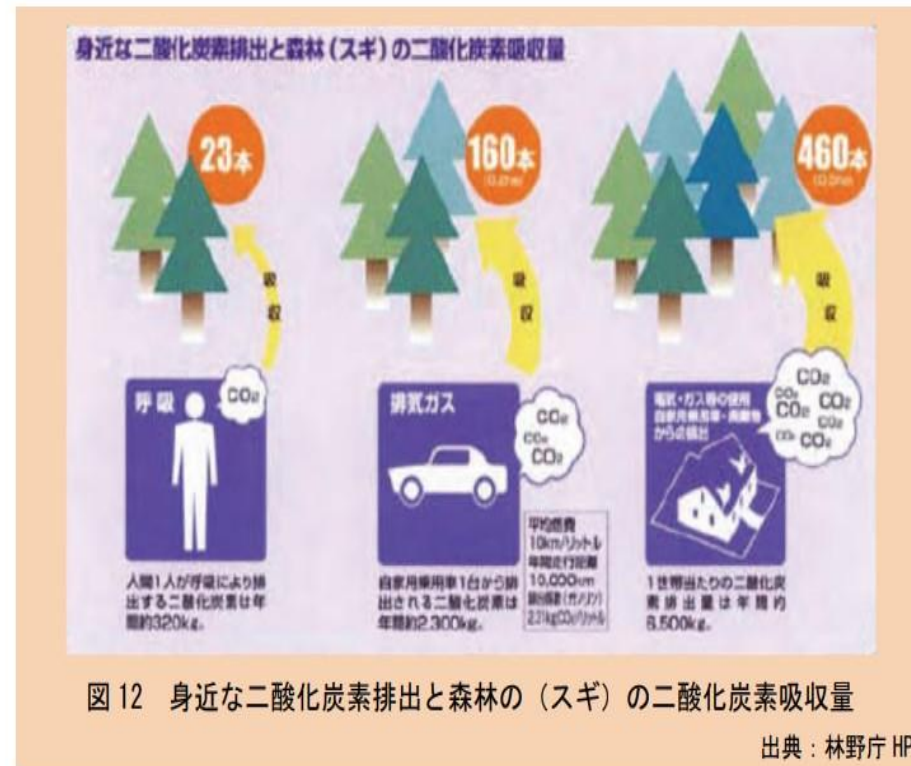


図 12 身近な二酸化炭素排出と森林の(スギ)の二酸化炭素吸収量

出典：林野庁 HP

¹⁰ 林野庁 HP 40年生前後のスギ人工林1ヘクタールが1年間に吸収する二酸化炭素の量 http://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/20141113_topics2_2.html

Google マップを検索する



あ

レストラン

通機関

薬局

ATM



龍朗

おひさま保育園

仙台市茂庭
市民センター

ヤマザワ 茂庭

貴船神社

生出森八幡
神社山宮

茂庭大館跡

カナクソ遺跡

涌沢

桜の園

P

宮城交通(株) 仙台

嶺館

太白山駅(秋保電鉄)

岩の川

けんとう城

西館

本郷遺跡

仙台市立人來田

熊沢

東館

A&Fカントリー
仙台茂庭店

ダイユーエイト
仙台茂庭店

JA新みやぎファーマーズ
マーケット元気くん...

Google CNES / Airbus, Maxar Technologies, Planet.com, 地図データ ©2023 日本 利用規約 プライバシー フィードバックの送信 200 m



レイヤ

5°C
もり時々晴れ



15:00
2023/07/



熊沢取水口

本郷用水路



岩の川取水口

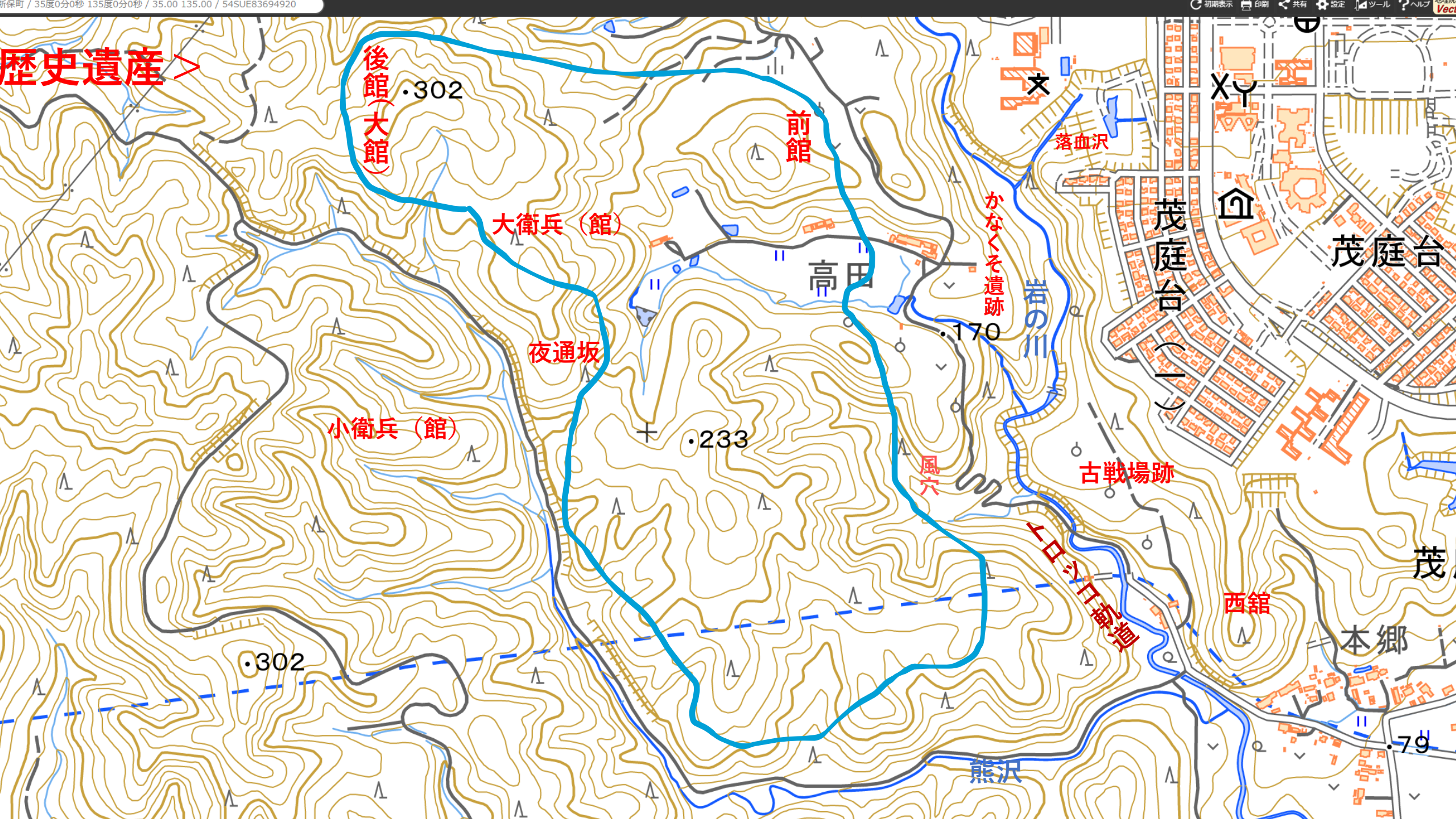
ゲンジホタル



涌沢



歴史遺産



せんだいくらしのマップ

せんだいくらしのマップは、仙台市が提供する地理情報システムです。

危険地マップ

マップ切替
 現在地 仙台市太白区茂庭 付近
 透過性
 初期値

案内地図

仙台市青葉区国分町3丁目7-1

検索

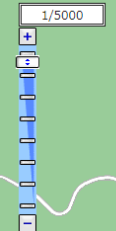
測る
 描く
 ルート

切替
 全て選択
 全てはずす

- 法定指定区域マップ
 - 指定地
 - 砂防指定地
 - 土砂災害防止区域
 - 地すべり防止区域
 - 急傾斜地崩壊危険区域
- 災害危険箇所マップ
 - 土砂災害危険箇所
 - 土砂災害危険区域
 - 土砂災害危険区域
 - 土砂災害危険箇所
 - 地すべり危険箇所
 - 土塊の到達範囲
 - 移動土塊の到達範囲
 - 急傾斜地崩壊危険箇所
 - 急傾斜地崩壊危険箇所
- 火警警戒区域等マップ
 - 警戒区域(急傾斜地の崩壊)
 - 警戒区域(急傾斜地の崩壊)
 - 警戒区域(急傾斜地の崩壊)
 - 特別警戒区域(急傾斜地の崩壊)
 - 警戒区域(土石流)
 - 警戒区域(土石流)
 - 警戒区域(土石流)
 - 特別警戒区域(土石流)
 - 警戒区域(地すべり)
 - 警戒区域(地すべり)
 - 警戒区域(地すべり)
 - 特別警戒区域(地すべり)
- 施設
 - コミュニティ防災センター
 - コミュニティ防災センター
 - 施設
 - 市役所・区役所・証明発行センター
 - 市役所・区役所・証明発行センター

一覧から検索

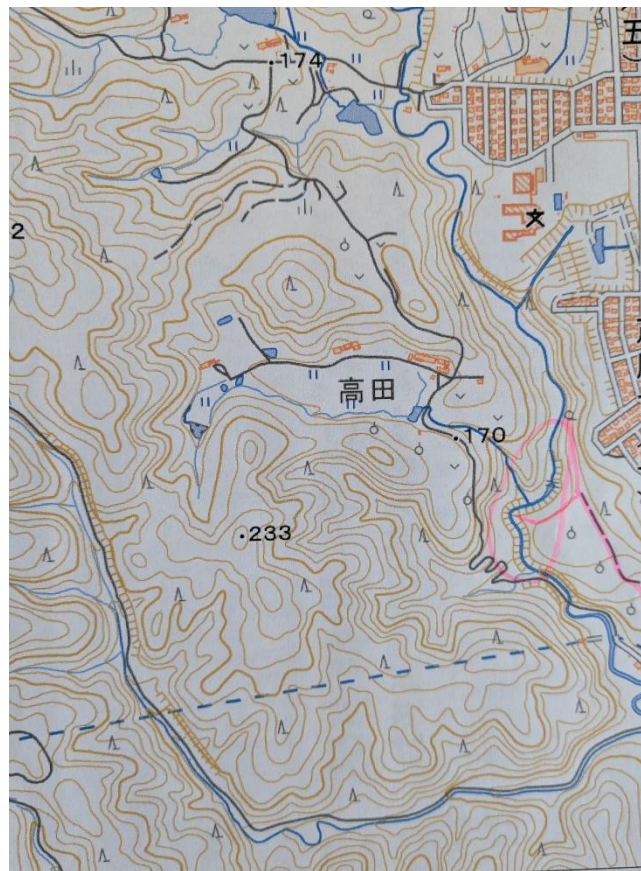
物・施設一覧から検索



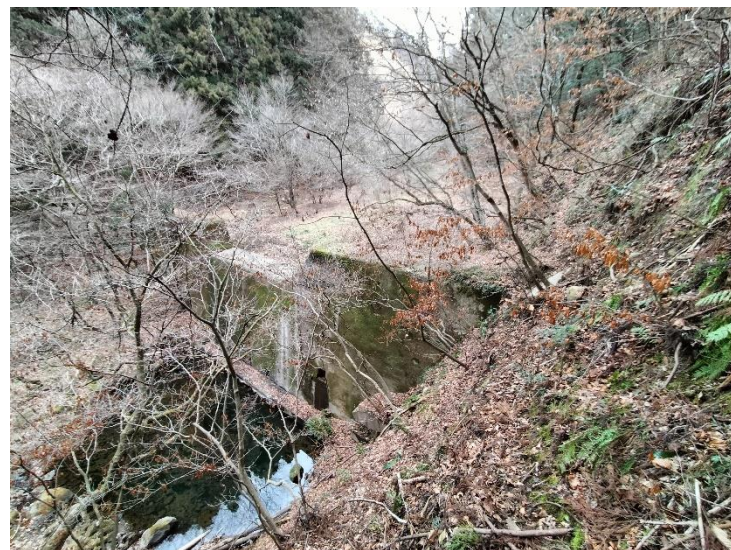
岩の川探索 2022年11月27日



岩の川砂防ダム視察 2023年1月24日



宮城県仙台土木事務所職員と一緒に視察







岩の川 2022年9月4日 準備会探索



2022年7月13日 15:30頃 (最大雨量37.0mm/60分 133.5mm/日)



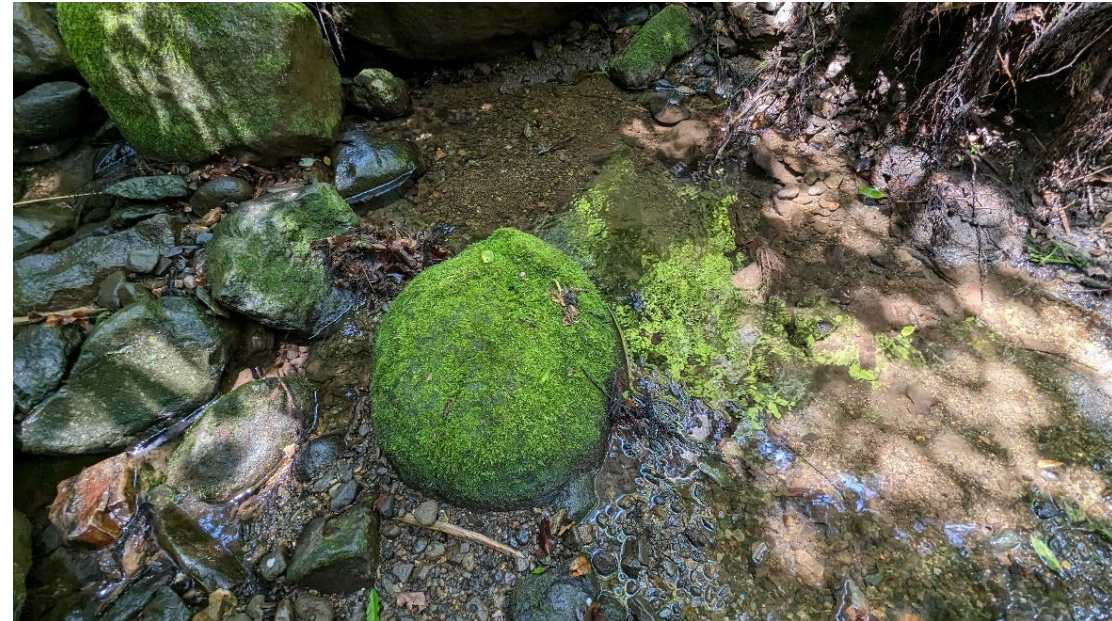


熊沢 2022年6月7日 6日積算雨量82.5mm/日

熊沢視察 2022年 12月16日
(仙台河川課職員2名、会員2名)

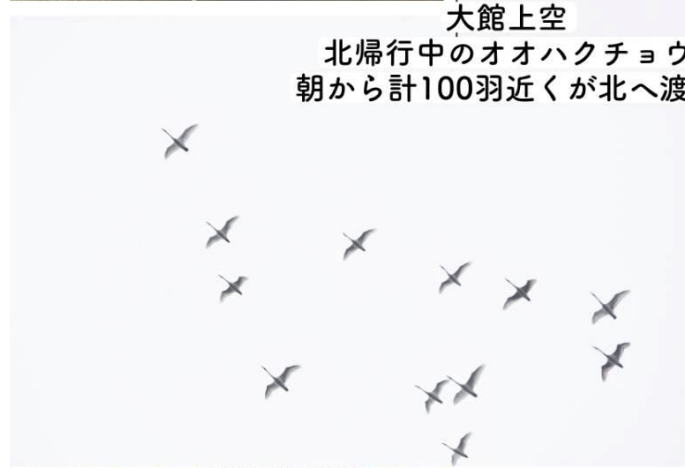
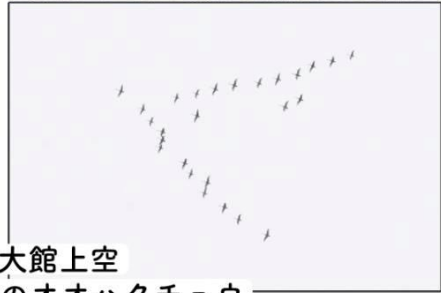
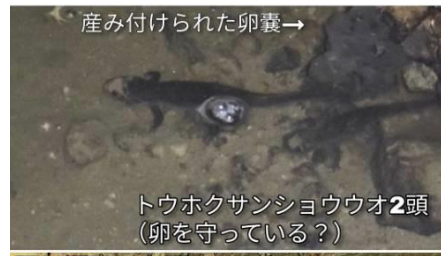


流木撤去作業終了2023年6月25日









2023年02月24日
茂庭MS計画地の
生き物調査にて

関光洋さん提供



講師・向井康夫さんについて

1976年 大阪生まれ。物心つく頃から虫が好きで

長く田んぼの動物の研究を続けてきました。

今は、田んぼだけでなく人が管理している

幅広い場所を利用して生きている

生き物全般に興味を持っています。

大阪府立大学農学部卒。

京都大学 地球環境学 森川里海連環学講座 助教、

東北大学 生命科学研究所 群衆生態分野 助教を経て、

2017年より現職。

現在、東北工業大学ライフデザイン学科 非常勤講師を兼任。

むかいいきもの研究所は、

生きもの観察会や、生きもの調査、ものづくりなどの体験を通して、

身近な自然のことを、楽しく学んでいただく活動をしている団体です。

https://www.mukai-ikimono.com/1_about_us.html

●Email tatsuro4334@yahoo.co.jp



田んぼの生きものを調べてみよう

◆日時 6月11日(日)9時～12時

◆場所 太白区茂庭本郷 ●参加費一人300円 (保険料・材料費)

◆講師 むかい*いきもの研究所 向井康夫さん(むかっち博士)

◆参加希望者は、お電話にてご連絡ください。(先着20名 電話 090・3649・6977)

◆持ち物 泥に入っても良い靴、予備の靴、着替え、タオル、飲み物

◆採集観察に必要な道具類は、こちらで準備いたします。









おわり